

e シールに係る認定制度の関係規程策定のための有識者会議（第8回）議事要旨

1. 日時

令和6年12月18日（水） 15:00～15:40

2. 場所

オンライン開催

3. 出席者

（構成員）

伊地知構成員、漆畠構成員、岡本構成員、小田嶋構成員、柿崎構成員、宿谷構成員、中村構成員、濱口構成員、米谷構成員

（オブザーバー）

デジタル庁

（事務局）

総務省、株式会社野村総合研究所

4. 配布資料

資料8-1 e シールに係る認定制度の関係規程策定のための有識者会議取りまとめ（案）

資料8-2 e シール用認証業務の認定に関する実施要項（案）

資料8-3 e シール用認証業務の認定に関するガイドライン（案）

5. 議事要旨

◆議題（1）「有識者会議取りまとめ（案）」、「実施要項（案）」、「ガイドライン（案）」について、事務局より資料8-1、8-2、8-3に基づき説明が行われた。

○e シールに係る認定制度の関係規程策定のための有識者会議取りまとめ（案）

- 意見なし。

○e シール用認証業務の認定に関する実施要項（案）

- 指定調査機関が e シール用認証業務の認定に係る調査を行う際に、指定調査機関が任意で、AATL 等の他の制度の認定に係る調査を同時に行うことは可能かについて、検討いただきたい。

○e シール用認証業務の認定に関するガイドライン（案）

- 意見なし。

○各構成員からの本有識者会議全体に関するコメント

- e シールの認定制度の運用開始後、ガイドラインの内容も見直さなくてはならない点が出てくるであろう。制度をメンテナンスし、改善し続ける運用が重要となるため、引き続き協力する。
- e シールの認定制度が普及し、広く利用されることを祈っている。
- 既に認定認証業務の電子証明書を活用している分野においても、e シールの活用が適している手続きもあるため、今後の e シールの普及に期待する。
- 変化に対応していかななくてはならない部分が出てくることが想定されるため、引き続き検討していきたい。有識者会議取りまとめ（案）の今後の検討課題についても、継続的な検討をお願いしたい。
- タイムスタンプに続き、e シールが日本のトラストサービスとして運用が始まるのは喜ばしいことである。将来的に、日本のトラストサービスが世界と相互運用できることを期待したい。
- e シールは今後の日本における DX を推進する礎になるものであると考えている。
- 今後の課題として将来的な検討事項は残っているが、e シールの認定制度が運用され、世の中に広く活用されることを祈っている。
- 欧州の市場調査によると、トラストサービスの中でも e シールの利用件数は非常に多い。日本の DX を支える上でも必要な制度であるため、運用開始後も引き続き調整等を含めて検討を進めていただきたい。e シール普及支援の観点から、認定を受けた e シールサービスを活用したユースケースを示すだけではなく、政府機関が積極的に活用していくことを期待したい。
- e シールの需要は非常に高いため、これまで議論になってこなかったユースケースも、e シールの認定制度の立ち上げ後に拡大していく。それに伴い、新たな課題も出てくるはずであるため、適切に改訂するための検討を進めていただきたい。

6. 閉会

- パブリックコメント等の今後の動きに向け、適宜構成員各位に修正について相談しながら、資料の最終調整を進めることとし、資料修正は事務局一任とされた。
- 総務省サイバーセキュリティ統括官室の瀬高サイバー・経済安全保障情報分析官より閉会挨拶。

以上